

斐太北小 ESDだより

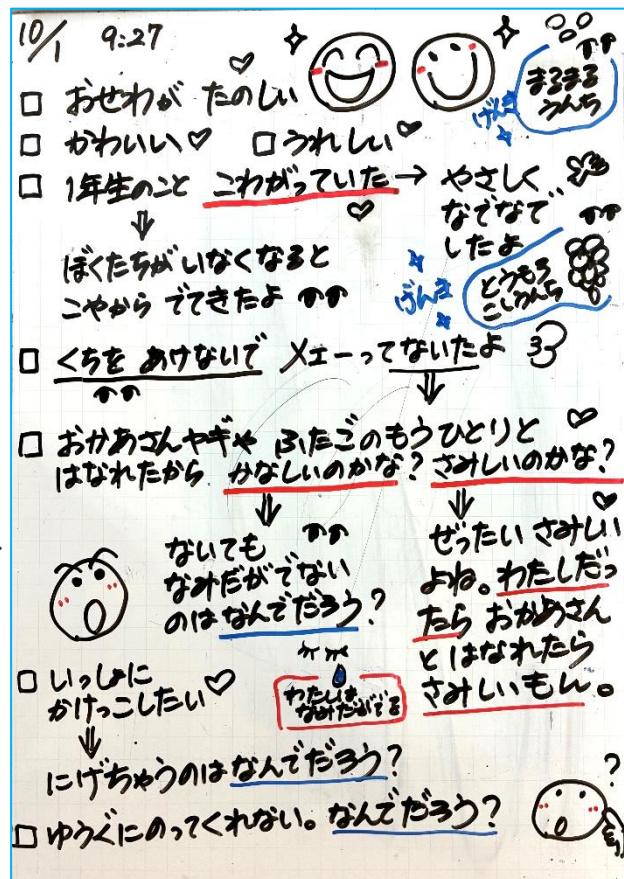
Education for Sustainable Development (持続可能な社会の創り手を育む教育)

ヤギとともに学ぶ1年生

本校では、1年生がヤギの飼育に取り組んでいます。9月27日(月)に入学式を行いました。今年生まれた雌のヤギに「なないろちゃん」と名前を付けて、入学式の前から手作り遊具を作って、とても楽しみに大切に準備をしてきました。

入学式2日後のお世話が終わった後に教室に行くと、あふれる気付きや想いを言葉にして伝えてきた1年生。慌てて書き留めました。

そして、今朝、みんなでなないろちゃんが遊具に乗っている姿を見て「見て見て!やったー!」と大喜び。しかし、新たな問題発生!!「なないろちゃんが滑り台から滑ってあぶないよ!」と気付いた1年生。さっそく対策会議を始めていました。



ユネスコスクールとしての学びの柱は、持続可能な社会をつくる力を育てることです。ヤギは草を食べ、ふんは土に還り、また次の命を育てます。その循環を間近で体験することは、自然や環境と自分たちの生活がつながっていることを理解する大切な学びとなります。さらに、ヤギの世話を協力して行うことで

「仲間と支え合い、よりよい社会をつくる力」も身に付けていきます。なぜ、斐太北小学校で、今年の1年生はヤギを飼育をするのか…みらい学習として大切にしたいその価値については、裏面にまとめてみました。1年生の保護者の皆様は心にとめておいた上で見守っててください。2年生以上の保護者の皆様は、きっと「そうそう」「こんなことを感じていたんだよね、あの時うちの子」と実感されるのではないのでしょうか。なんのために…大切にしている言葉です。

こうした体験は、1年生にとって単なる動物のお世話ではなく、ESD（持続可能な開発のための教育）の実践そのものです。小さな手で水を運び、草を集める一つ一つの営みの中に、未来をより良くする力の芽が育っています。

① 命の重さと責任を実感する

ヤギの世話を続けることで、食事や水やり、掃除など日々欠かせないお世話の大切さを体験します。「自分がやらなければ、命がつかまらない」という責任感を自然に育むことができます。かわいい♡自分を投影する存在として動物に接することが多いです。でも、「かわいい」「楽しい」だけじゃなくとも実感できるから、体が大きめのヤギの飼育を構想しました。

② 観察力と気づく力を養う

ヤギは感情や体調が表情や行動に出やすい動物です。元気がないとき、喜んでいるとき、鳴き声やしぐさの違いに気づくことは、「相手をよく見る」「変化に気付く」という学びにつながります。これは人との関わりにも広がっていきます。理科や各活動にもつながる視点です。

③ 自然や環境とのつながりを学ぶ

ヤギは草を食べ、ふんを落とし、それが土に戻るという自然の循環を子どもたちの目の前で見せてくれます。身近な野草や自分たちの給食残菜をヤギが食べるなどの経験を通して、食や環境のつながりに気付き、ESD的な学びへ発展します。

④ 学びの共同性を育む

1年生同士、年長さん、あるいは上級生との関わりの中でヤギの世話を分担することは、協力や役割分担の実践の場となります。「自分ひとりではできないことを、仲間とならできる」という実感は学校生活全般に生きていきます。

⑤ 心の安定と安心

ヤギの存在そのものが、子どもたちにとって心のよりどころになります。話しかけたり触れ合ったりすることで安心感を得られ、学校が「楽しい場所」「安心できる場所」と感じられる要素になります。

ある日の放課後のエピソード…何のためのルール？

ヤギのなないろちゃん、大人気。子どもたちが興味関心を持って見守っています。

「まだ学校に慣れるまでは、怖がるから、柵の中に入るのは1年生だけにします。」と全校に向けて放送して、なないろちゃんのことを大事にしたい1年生。柵に看板も立てました。でも…他学年もヤギ飼育には自信があり、教えてあげたいこともあり、自分もかわいい子ヤギに触りたいこともあり…。

1日の放課後、上級生が小屋に入ろうとしていました。私が近くに行くと「校長先生がいいって言えば入ってもいいよね。」と迫られました。私は「私も柵の中に入って触りたいよ。かわいいよね。でも、なんで1年生だけ入ることにしますってルールを1年生が全校にお願いしたんだろうね？」と問いかけました。ヤギ愛あふれる気持ちに折り合いをつけ、なないろちゃんがまだ怖がっていることが分かる上級生たちは我慢しました。

その場にいた1年生は、一人で柵の中に入り、上学年たちのアドバイスを受けながら、逃げられない近づき方（なないろちゃんと目の高さを合わせ、餌をもって、少しずつ優しく声を掛けて距離をつめる）を習得していました。保護者の方も温かくその様子を見守っていました。そして、「小屋に入らないルールを守れて偉かったね」と声を掛けていました。なないろちゃんが学校に慣れて、早く全校の子どもたちと遊べる日が待ち遠しいです。